

芸園と幼児



阿久沢栄太郎

はじめに

十二月の声を聞けば野山も霜枯れをむかえ植物は越冬の生活にはいる時です。

寒気が身にしみる頃で、つい不精になり、庭に目がとどかなくなるのがふつうですが、すこし注意して世話をすれば冬枯れのさびしい庭や室内をたのしい雰圍気にすることができると思います。

それでは、例によって、

- (1) 先生がせわをするしごと、と
 - (2) 幼児といっしょにするしごと
- にわけて説明することにしませう。

一、先生がせわをするしごと

〔1〕庭の手入れ

冬枯れの庭の手入れの第一は霜よけです。

秋の頃、まいた種子や球根の中には霜や霜柱に強いものもあります。

しかし冬の寒気に弱いものもあります。チューリップ、クロッカス、すいせん、ヒヤシンスなどは寒気につよいので、霜よ

けなどをしなくても、元気に冬越しをします。しかし、若い芽を出している根元の地面にいねのみがら(都会では八百屋さんでりんごの箱につめて来たものをわけてもらうとよい)をかるくまいておく(と根元を保護することができます。しかし、パンジー、ルビナス(のぼりふじ)、スイトピー、アネモネなどは寒さに弱いので霜よけをしてやる必要があります)。

これは幼児といっしょにしごとをするのは少し無理だと思えますので、先生が霜よけをつくっておき、あとで、みせて、絵の材料にするようにするのがよいと思います。

* 霜よけのしかた

霜は冷えた空気が水気を含みきれないで、草花の葉、木の枝などに結霜するので、すから、おおいをして、太陽熱の放射によって結霜を防ぐのです。

いろいろの方法がありますが、次のようなものの中から、先生がたの幼稚園でできるものを選んでするようにしてください。

① ささ立て

いちばん、かんたんな方法で、ささやたけの小枝を、草花のあぜの間、株間いっばいにたてておくようになります。

あまり、たくさんたてすぎて日当りをわるくしてはだめです。スイトビーやパンジー、ルピナスなどは、この方法でじゅうぶんに合います。

② 板がこい

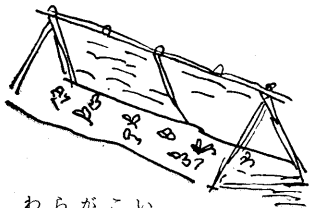
あまりたくさんでないときや移植できない、ケシの類などをまいた場所は、その北がわに戸板や箱の板などを利用して北風をよけてかこってやるようにする方法です。

③ わらがこい

板のかわりにすみだわら、こむぎのわら



さ さ 立 て



わ ら が こ い

などをしつかりとならべて、風でとばないように、屋根をかけてやる方法です。

④ ビニール・テント

すこし面積がひろいときには、ビニールでトンネルをつくってやります。割竹でトンネル式にわくを組み、ビニールでおおいをする方法です。南側だけは開けたてできるようにしておきます。

寒い日には、ビニールはとじ放しにしておきますが、晴れて天気の良い日には、日中南側だけあけて換気してやります。

* 葉ぼたんの鉢植えのしごと

夏の頃、まいておいた葉ぼたんの手入れをするシーズンです。

寒さと共に葉ぼたんが色づいてきます。正月の頃、鉢植えにして室内に持ちこんで楽しむには、十一月終りから、十二月の初めの頃に、鉢植えにするのが適當です。鉢植えの土は、花だんや畑の土でも根づかないことはありませんが、いつまでも元気にしておくた

めには田土を2、ごみでつくった土の割合にまぜ合わせてつくった土を利用するとよい結果が得られます。

鉢植えにしたら、すぐ日かげにおいて、なるべく早く、しおれを回復させるようにしてください。

しおれが回復したら、日のよく当る所にします。とにかく、太陽によく当たらないとシンのびはじめて色があせてしまいます。年末までは、日当りのよい庭先に出しておきじゅうぶん色をよく、年末になってから室内に持ちこむようにしましょう。

第三学期に、幼児にみせようという時は、冬休み中も室外の日当りのよいところに出しておいて、見える前に室内に持ちこむとよいと思います。

(冬、霜の直接あたらないところにおいて春までもたせると、四月には花ざかりになりますので、あとしまつのしかたで、四月まで楽しんで、利用したりできます。)

〔2 室内に準備するよいもの〕

(1) ふくじゅせう

花屋さんから、幾鉢か買い求めて来て室内の日当りのよいところに置いて絵の材料にするとういと思います。

正月に花を咲かせるには、フレイムに入れて温度をかけてあるので室内の日当りのよいあたかなところに置かないと開花しないことがあります。

(2) モンステラー

ほうらいしょうとか、電信草とか、いろいろのなまえがつけられているようです。

室内で、冬越しさせながら楽しめる熱帯性植物です。異国的な草姿は洋風の部屋にふさわしいのですが、寒さに対して比較的つよいので、幼稚園の部屋の中でじゅうぶん冬越しさせながら楽しめます。

茎から出る気根も長くのびてなかなかおもしろいものです。

現在では洋風の部屋でよく見かけるもので、ぜひこのようなものを幼稚園の部屋にも鉢かざり絵の材料にしたいものです。

(3) イントゴム

これは、誰でもよく知っているコムの木

の一種です。葉が皮のように厚くてつやつやしていて、室内をかざるのに適した熱帯性植物です。寒さに比較的つよいので、室内でじゅうぶん冬越しさせることができます。よく、白い斑入りのものがありますが、これは寒さによわいようですから、斑入りのものでない方がよいでしょう。

(4) せんりょう

これは、暖地の植物です。

ちょうど寒くなるころ真っ赤な実をつけるので、冬の間、室内に鉢植えにしたものを置いてながめるのに適している植物です。

かたい葉と、ごちゃごちゃした真っ赤な実はいへん美しいので、よく室内に飾ってあるのを見かけますが、幼稚園の冬の部屋をかざるのにも好適であると思います。

二、こどもといっしょに

するしごと

(1) 正月に咲かせるスイセンの水はんつくり

正月にスイセンの花を咲かせるように工

夫してみることも楽しいことです。

みなさんは、スイセンを水栽培したことがあると思います。しかし、花が咲くのは二・三月の頃で、正月に咲かせることはむずかしいと思っているかもしれません。

しかし十二月の初めに、水はんつくりすると、正月にはりっぱに花を咲かせることができます。

今年、みなさんの手で花をさかせ、幼児と共に楽しんでいただきたいと思います。

① スイセンの種類について

水はんつくりを使用するスイセンの球根は、どれもよいというわけではないので、球根をえらぶ必要があります。

水はんつくりに適しているスイセンは、とくに早咲きする日本スイセン、支那スイセン、黄房スイセン、ペーパーホワイトなどの房咲スイセンなどです。

② 植える時期と方法について

ふつう、十月に植えてしまう球根を植えないで十二月まで乾いたままで置いたものを使います。

十二月初めになったら、適当な水ばんか、どんぶりのようなものに入れ、水に球根がひたるようにしてやります。

根を出そうとまちかまえていた球根は、水に浸した翌日から、どんどん根を出しはじめます。

そして、葉も勢いよくのび出します。花はすでに球根の中にはいつているのですから、すぐに咲き出せるわけです。ふつう、十二月頃の室温では、根を出しはじめてから三十日位で、花が開くようになります。

根が出はじめると、よく球根は横にころがったりしますが、球根が立っているようにしてもよいし、またそのまま、ころがしておいても大丈夫です。葉は上の方へまっすぐのびていくので、ちょっと風情のある趣きものが出来あがります。

② 注意事項

根には、直射日光の当たらないようにすることが必要です。よくのびるまでは、ガーゼか脱脂綿でぬれたままおっておくようにするとよいと思います。

以上のように、水ばんづくりを十二月初めにすれば正月になり第三学期のはじまる頃には、美しい花が開いているので、幼児のために適したしごとにもなります。

そこで、幼児といっしょにグループをつくって分担をきめ、それぞれ、めいめいがかわいがって育てた花であるという意識をもたせるようにしくんでいけばたいへんおもしろい指導ができると思います。

正月には絵の材料にもなり、殺風景な冬の教室の生活をすこしでも豊かにすることができましょう。

(2) 球根の水栽培

すでに十月から十一月初めのころはじめてチューリップ、ヒヤシンス、クロッカス、スイセンなどの球根の水栽培をしているものが、若い根や芽をのばしはじめています。

この頃では、もう、根もすっかりのびていると思いますが、きつと、容器の中の水がよごれてきたなくなっているものがあることと思います。これを、そのまま、放って

おかないで、きれいにしていくようにしたいと思います。

まず、きたない水をすてて、容器をきれいに洗いましょ。そして新しいきれいな水を満たしましょ。

このように、きれいにしておいても二—三週間たつとまたきたなくなってしまうです。そこで、次のようなことに気をつけるようにしましょ。

(1) 日光の直射するところをさけて日かげにおくこと。正月いっぱい位は、日光の直射をさけて日かげの室内におくと、水がにごってきたり、よごれたりするのがある程度ふせぐことができます。

これでもよごれるようでしたら、二—三週間ごとに水をとりかえて、容器を洗うようにするとよいでしよ。

(2) 木炭の小さいつぶを入れておく。

新しい木炭のつぶをなげ入れておくとたいへん効果のある場合があります。成功するかどうか、ためしてみてください。(お茶の水女子大学付属小学校)